

みつくら

平成 3年 8月15日 第344号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

「畑集落の証」看板の修理を実施

破損していた「畑集落の証」の案内看板は、6月15日に大瀬川活性化会議が修復した。修復後に訪れたが穴の空いた跡が全く残っていなかったため、作業に携わった(株)スタジオ東日本に聞いたところ「幸いに、制作時の原版が残っていたので作り替えました」とのこと。石鳥谷交番では、被害があった時からパトロールを続けている。

ふれあいサロンで頭の体操

あじさいの会(板垣福子会長)は6月24日大瀬川振興センターでふれあいサロンを開催し36名が参加した。この日は社協と包括支援センターの職員4名を講師に1時間にわたって「頭の体操」を行った。社協の職員による大瀬川クイズでは、大瀬川に関する問題(大瀬川にある神社や、昔あった医院、医者など)が出され、よく詳しく調べたものだと感心させられた。頭では分かっているがなかなか答えが口に出ず、つくづく歳の積み重ねを実感したひと時であった。参加者は感染対策をとりながら久しぶりの触れ合いを楽しんでいた。

山祇神社の屋根葺き替えが完了

山祇神社の屋根葺き替え工事が6月28日に終了した。葺き替えた屋根は、玄関や台所を除いた社務所部分。工事に携わった板垣賢仁さんに「前に葺き替えたのは何年前なの?」と聞いたところ、「トタン」の厚さが変わったのは昭和50年なので、その頃だと思う」との返事であった。計算すると46年前となる。雨も漏れる訳だ。

猪被害で水田に電牧が増える

大瀬川で初めて電気牧柵を使ったのは菅原孝三さんで、平成12年に熊からブルーベリーを守るためであった。その後、菅原富久夫さんが大瀬川で初めて猪を目撃したのが平成28年だったので、僅か5年ほどで猪による被害が拡大した

ことになる。猪対策で菅原孝作さんが高井沢地内(8反歩)水田に電牧を初めて設置したのは平成30年であった。

近年は、猪による水田の被害も目に余り、畦の破壊の他にイネの刈り取りを諦めるほど収穫前のイネを踏み荒らしたり、土を掘り起こすなど、その対策に苦慮している。その中で、7月5日に湯ノ沢地内に水田がある農家3名(代表菅原黎治さん)が共同で3ヶ所(計約5町歩)に電気牧柵を張り巡らした。電源は太陽光から蓄電するもので、菅原黎治さんは「電牧は冬越しができないので、毎年設置と撤去をしなければならず、手間ひまかかります」と嘆いていた。

自生花菖蒲園の種子講話

令和2年に花巻市教育委員会文化財課で行った大瀬川自生花菖蒲園の種子調査の講話を、7月3日の「野点の会」にてお聞きした。講師は文化財課長の平野克則さんで、私達の知らない多くのことを話された。主な内容は、国指定天然記念物(花菖蒲)の花輪堤(昭和10年指定。花巻市西宮野目)と大瀬川自生花菖蒲群の種子比較であった。

花輪堤では、平成29年には花菖蒲の茎の数が300本まで減少し、以後少しずつ増えてきているが、往時とは比較にならない程寂しいのが現状とのこと。国指定天然記念物(花菖蒲)は、花輪堤の他に三重県と鹿児島県の3ヶ所。種子の比較では、花輪堤の方より大瀬川自生花菖蒲園の方が一花茎当たりの莢(さや)の数(花輪少ない、当地多い)、莢の大きさ(同じ)、1花茎の長さ(花輪70cm、当地90cm)、1花茎当たりの花芽(花輪1.3ヶ、当地1.5ヶ)、種子のある莢(花輪17%、当地85%)、1莢の種の数(花輪少ない、当地多い)といずれも当地の方が優れていた。

花輪堤のホームページには「花菖蒲の日本の北限は花輪堤」とある。こじつけるわけではないが、大瀬川の花菖蒲は、さらに北限にあたるのではないだろうか。

畦畔一斉草刈りを実施

下大瀬川美土里の会(高橋義晃代表)では、年4回の一斉草刈りを実施しているが、1回目と4回目は9区民を対照に主に幹線道路を中心とした草刈りを行い、2回目と3回目は自作耕地の草刈りを行っている。

2回目は、6月19日に51名・3回目は7月17日に50名が参加して午前中自作耕地の草刈りに専念した。今年度最後の4回目は、9月4日を予定している。

自主消防訓練が実施される

花巻市消防団第13分団(畠山敏弘分団長)では、第1部(大瀬川8区と9区)第2部(大瀬川7区と8区の一部)第3部(八日市)第4部(北寺林)が、7月18日に石鳥谷総合支所西側に集合し、各部のポンプを連結した実践さながらの中継送水訓練を行った。同時に、火災時における敏速な対応をするための無線交信訓練も行った。

花巻市では、コロナ禍により多くの活動が制限されている中、市全体の消防団活動も同様、石鳥谷地区消防団では分団ごとに訓練内容と日時を設定し訓練を行っている。

また、火災防止広報や土砂災害警報時における巡回活動も随時行っている。

「いきいき講座」を開催

9区たんぼぼの会(熊谷幸子会長)では、7月21日に9区自治公民館にて花巻市長寿福祉課による「いきいき講座」が開催された。当日は参加者が9名と少なかったが「認知症・老化予防の食事」と題してスライドを見ながら食事の大切さとポイントを学んだ。特に、「さ→魚 あ→油 に→肉 ぎ→牛乳 や→野菜 か→海草 い→芋 た→玉子 だ→大豆(豆類) く→果物」の頭字をとった「さあ にぎやかにいただく」は、バランスよい食品摂取を心がける標語としてとても解りやすかった。その後、座ったままで元気でまっせ体操を行って終了した。

台風8号で大瀬川に避難所を開設

7月28日統計開始以来太平洋側から東北地方に上陸した2例目となった台風8号は、その被害が予想されたことから、花巻市は27日17時に災害警戒本部を設置し、同時に「警戒レベル3・高齢者等避難」を発令した。これに伴い花巻市内の振興センターなど21ヶ所に緊急避難場所が設置され、大瀬川振興センターでも、7月27日夜から28日正午に解除されるまで市職員が常駐したが、避難者は無かった。

現在、大瀬川地内には7区内の高井沢(葛丸川頭首工北側付近)と水上沢(菅原教雄さん宅西側)の2ヶ所が土石流危険区域に指定され、花巻市では平成30年に対象地区民に説明会を行っている。

大瀬川で落雷

7月28日16時20分頃、長助家付近の電柱に落雷があり、一時約50戸が停電した。この付近は片寄から送電しているが、自動的に花巻方面からの送電に切り替えられ停電は5分ほどで回復した。

翌日の午前中に東北電力が調べたが、落雷箇所が複数あったらしく、目をあらためて修理を行っている。

野原地区のゴミ集積所を更新

大瀬川野原地区にあったゴミ集積所は、他の地区から譲り受けたもので、経年劣化のために蓋が錆び付いて開けにくく不便だったがこの程更新となった。新しい集積所は、8区環境整備委員会(菅原洋二委員長)が大瀬川活性化会議に補助金を申請して実現し、7月31日に設置された。近所の板垣美智子さんは「おかげさまで使いやすくなりました。ゴミ集積所だからこそ、美観や景観を考慮された結果だと思います。ありがたく使わせていただきます」と話していた。

みつくら

平成 3年 8月15日 第344号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

畦畔一斉草刈りに約1200人出役

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員372名）では、6月1日から7月31日まで2ヶ月間にわたり畦畔一斉草刈りを行い、延べ1190名の出役があった。前年度より100名多いがこれは前年度に出役しなかった方が協力した事と、半日出役が多かったのが要因であった。板垣幸夫会長は最後の終礼で「今年度も怪我もなく、多くの方々のご協力をいただいて無事に終える事ができました。おかげさまで、活動区域内の畦畔は総て綺麗になりました」と感謝の言葉を述べた。

菅原さんが朗読した「賢治やまなし祭」

石鳥谷賢治の会主催の第10回賢治やまなし祭は8月1日、雨のため会場を大瀬川構造改善センターに変更して24名が参加して行われた。主催者挨拶で玉山領一会長は「コロナ禍でもあり、今年も来賓は招かず、会員のみで行うことになりました。当会の主要事業であります三大祭は、規模を縮小してでも続けているところです」と挨拶された。やまなし講話はお二人からで、奥州市の菊地憲野さんからは「絶滅の危機に瀕しているイワテヤマナシの保存に力を注いでいる」と活動を詳しく話された。もう一人の小原正通さんからは、町内4校の小学校へ寄贈したやまなしの剪定を毎年行っている様子や、長野県佐久市からの要請で当地から送付したやまなしについての講話であった。恒例の童話「やまなし」の朗読は向竈家の菅原永織（石鳥谷小学校6年）さんが、はっきりした口調で読み上げた。最後はCDに合わせて参加者全員で「やまなし讃歌」を斉唱した。菅原富男さんは、所感の中で「イワテヤマナシの貴重な存在を知り得る事ができて、大変参考になりました。また、菅原さんの朗読も立派に発表されて、私達が蟹やヤマナシの実になったような気になりました」と感想を述べられた。このやまなし祭の様子は8月2日の夕方、NHKの「おぼんです岩手」で放送された。

大瀬川公葬地を清掃

大瀬川公葬地管理運営委員会では、役員14名が8月1日の早朝に清掃を行った。これは、お盆を前に毎年実施しており、今年も瞬く間に綺麗に掃除が終了した。板垣弘清委員長は「お陰様で綺麗になった環境の下でお盆を迎える事ができます。参加した皆さん、ご苦労様でした」と挨拶した。

表彰（敬称略）

はなしん第8回東北夢の桜街道児童絵画コンクール
 佳作 辻村大雅さん（久助家）

人事（敬称略）

山祇神社（改選のみ記載）
 責任役員 菅原黎治 畠山勝榮 藤原利博
 総代長 畠山一男
 副総代長 畠山信幸 高橋義晃
 総代 熊谷和紀 菅原優子
 庶務補佐 熊谷賢良 会計補佐 菅原幸福
 監事 辻村雅之
 南部杜氏協会
 理事 板垣忠治（令和2年〜）
 石鳥谷支部長 畠山信幸（令和2年〜）
 花巻市社会福祉協議会評議員 菅原文子（茶畑竈家）

大瀬川で今年初の熊を捕獲

今年になって初めて大瀬川地内で熊を捕獲した。石鳥谷総合支所の話によると、7月25日に大穴地区の菅原善治郎さん所有のブルーベリー畑で捕獲した。熊はやや小さめな成獣であった。ちなみに、大瀬川での熊の捕獲は令和2年は1頭、令和元年は4頭であった。

個別に相談が出来た健康相談講座

あじさいの会（板垣福子会長）では7月27日花巻市の長寿福祉課による健康相談講座を大瀬川振興センターで13名が参加して行った。市側からは、保健師1名、管理栄養士2名、歯科衛生士1名、理学療法士1名の5名で指導・相談にあたった。受付が終わると靴下を脱いでタニタの体脂肪計に乗り（体脂肪率やBMIの他に11項目もの結果が数値化）測定をした。その後、口と顔の体操の指導を受け、免疫力を高める為に唾液が十分に出るツボを刺激する方法を体験しながら学んだ。続いて、会が毎週火曜日に行っている「大東・元気でまっせ体操」を理学療法士から正しい動きの説明を聞きながら、ゆっくりと行った。その間に最初に測定したデータをもとに個人の健康状態の確認と改善点の指導を受けたほか、前日の食事をもとにした栄養士による栄養指導や、脚点を強化し老化に伴う転倒を防ぐ為に新聞紙を床に置いて足の指で掴む運動も行った。このほかにも歯科衛生士からは口の中を見ての健康状態の指導もあった。

大変有意義な講座だったのでより多くの受講を呼び掛けたところだが、コロナ禍でもあり非常に残念だった。終了時には、参加者に普通の歯ブラシの4倍も長持ちする歯科用の歯ブラシを頂いた。

汗だくとなった環境整備

8月7日に7区民28名の協力で大瀬川運動公園と振興センター周辺的环境整備が行われた。事前に作業箇所と作業分担の確認をして開始。連日の暑さで、早朝にもかかわらず気温は25度もあり、参加者は汗だくでの作業となった。グラウンド東側も刈り、草は葛丸川の河川敷に運搬した。一方、花巻市では現在使用禁止のプールについて来年度の撤去計画が検討されている。

今年は大瀬川チームは4位

8月1日ふれあい運動公園にて、ソフトボール協会主催の第27回 石鳥谷ソフトボール大会が、メンバーに女性1名以上、選手の合計年齢が350歳以上・盗塁なし等のルールのもと7チームの参加で行われた。今年には特に競技者（競技中）以外の者は全員マスク着用・各自体温を測るなど新型コロナウイルス感染対策の一方、戦力としていた4名が市民バレーボール大会に参加、板垣淑子さんも怪我で応援にまわってしまうなど、チームとして今大会の参加が危ぶまれたが、熊谷信人夫妻の参加で試合を行うことが出来た。初参加の熊谷信人さんはサードを、利律子さんは初めてのキャッチャーを上手にこなしてくれた。残念ながら試合結果は4位となったが、今までにはないアットホームな試合となった。参加者は（見学者含む）、菅原幸福（監督）、熊谷俊哉、板垣淑子、熊谷裕美子、熊谷信人、熊谷利律子、佐藤学、菅原邦典、藤原誠、菅原茂、菅原真吾、川村直人（敬称略）。皆さんお疲れ様でした。

葛丸川溪流釣り大会中止となる

葛丸川淡水魚組合（菅原昇組合長）では、新型コロナウイルス感染拡大のため、毎年6月に行っていた葛丸川溪流釣り大会を昨年は中止としたが、今年は時期をずらして8月に行う予定だった。しかし、8月7日に役員会で協議した結果、菅原組合長は「県内でもコロナ感染があまりにも拡大しているため、残念ながら今年も中止を決定した。参加を楽しみにしていた皆さんには申し訳ないですが、来年を楽しみにして頂きたい」と述べた。

事務室

今年も薬師堂川に蛍が舞っていた。舞始めたのは7月8日頃からで、毎日1〜2匹、多いときは5匹ぐらいが25日まで飛び交っていた。今年は天候のせい一週間ほど早く舞始めたが、数は少なかったように思う。